

大島紬の伝統と 技術を継承し、 新たなモノづくり に取り組む

有限会社はじめ商事

奄

美大島の有屋集落で8代続く大島紬の織元で、大島紬全般の製造販売（染め、織り）を行っている『はじめ商事』。

大島紬の製造の他に、新たな奄美の織物文化を創りたいと考え、お客様の声からこれまでタンス等で眠っていた大島紬に「裂き織り」の技術を導入して希望する洋服や小物等にリクリエーションすることにより、新たな価値を生み出し大島紬の良さを再認識してもらう「奄美布」の取組みを2011年から始めた。

この取組みは、「大島紬里帰りプロジェクト」として2014年に国の地域産業資源活用事業計画として奄美からは初めて認定を受け、大島紬の



「今後は、大島紬だけではなく、伝統の技術と道具で新しい生地を生み出し、奄美のテキスタイルメーカーとしての地位を確立していきたい。」と語る元さんの挑戦はまだ続く。

伝統を根絶やさない（織機や人など織物に係る全ての伝統の継承）ことを目的に活動している。

また、今年、先代の元会長を代表理事に奄美の素晴らしい文化を全国に発信するため（一社）AMAM IMAAを立ち上げた。初めての取組みとして、今年5月末から約2カ月間、吉祥寺東急「武蔵野マルシェ」の「コーナーに奄美の観光や特産品を紹介するコーナーを設置しPRを行っている。



有限会社はじめ商事
代表取締役

はじめ 元 だだ あき 允 謙 氏

昭和56年6月生まれ。名瀬市出身。趣味はバスケ。最近では仕事以外の機織りが趣味になりつつある37歳。

親から子、 子から孫へと 受け継いでいきたい 伝統の飴

富士屋製菓有限会社

鹿

鹿島県民なら誰もが一度は耳にしたことがある「からいも飴」のCM。「富士屋製菓」では、明治19年の創業以来、飴の製造販売を行っており、その数300種以上。現在は全国各地で同社の商品が取り扱われている。

4年前から中国やアメリカへ向けて輸出を行っている同社で、PR活動などを担当している、小野まゆみさん。中国では試食をなかなか手に取ってもらえず試行錯誤したという。「素材の名前を紙に中国語で書いて説明したり、いらつしやいませと声掛けして日本人であること、日本で作られた商品であることをアピールしたりしました」。無添加のからいも飴は健康志



定。「自分の子どもにも安心して食べさせられるものを作るよう常に心掛けています。今後もその思いで世界に良い商品を届けていきたいです」と話す二人の眼差しは優しさに包まれていた。

向の高い中国でも好評で、毎月定期的に輸出している。「自分が作った商品が海を越えて評価されていると思うと、素直にうれしいです」と話すのは、製造を手掛ける小松誠さん。現在では人参加かばちゃを使った新商品開発など、創業以来変わらない製法を受け継ぎながら、新たな取組みにも力を注いでいる。

富士屋製菓有限会社 取締役常務
小野 まゆみ氏(写真左)

昭和43年9月10日生まれ。東串良町出身。「愛犬と遊ぶ時間が至福の時です」。

製造部門
小松 誠氏(写真右)

昭和61年12月24日生まれ。志布志市有明町出身。「休日にはわんぱく盛りの2歳の子どもと遊んでいます」。

